

野洲市学校施設長寿命化計画

2022年（令和4年）3月

野洲市教育委員会

目次

第1章	学校施設の長寿命化計画の背景・目的等	1
1	背景	1
2	目的	1
3	計画期間	1
4	対象施設	1
第2章	学校施設の目指すべき姿	2
1	安全・安心な学校施設づくり	2
2	快適な学習環境づくり	2
3	ユニバーサルデザインと防災機能の強化	2
4	環境への配慮	2
第3章	学校施設の実態	3
1	学校施設の運営状況・活用状況等の実態	3
2	学校施設の老朽化状況の実態	12
第4章	学校施設整備の基本的な方針等	18
1	学校施設の規模・配置計画等の方針	18
2	改修等の基本的な方針	18
第5章	基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等	19
1	改修等の整備水準	19
2	維持管理の項目・手法等	20
第6章	長寿命化の実施計画	21
1	改修等の優先順位付けと実施計画	21
2	長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果	22
第7章	長寿命化計画の継続的運用方針	23
1	情報基盤の整備と活用	23
2	推進体制等の整備	23
3	フォローアップ	23

第1章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

1 背景

野洲市の学校施設は、昭和 40(1965)年代後半から昭和 60(1985)年頃にかけて建築されました。築 30 年以上経過しているものが 22 棟およそ 4.3 万㎡あり、学校施設保有面積全体の 64%に上ります。多くの学校施設は、老朽化による建物の劣化や設備の不具合などの問題を抱えています。そのため、適正な維持管理に加え、大規模改造工事や改築（建替え）に多額の費用が必要となります。

一方で、児童・生徒数は緩やかですが減少傾向にあります。今後、学校規模の適正化を図りながら児童・生徒数に見合った施設数とすることが、適正な維持管理をするための課題となっています。

2 目的

野洲市では、平成 26(2014)年 3 月に「野洲市小中学校施設保全計画」（以下「保全計画」という。）を定め適正な施設の維持管理を進めてきました。その後、「野洲市公共施設等総合管理計画（平成 29 年 3 月）」及び「野洲市公共施設のあり方（平成 31 年 3 月）」が策定され、その中で保全計画は学校施設の個別計画として位置づけられました。

野洲市学校施設長寿命化計画（以下「本計画」という。）は、保全計画の改訂にあわせ、「1 背景」を踏まえて学校施設を総合的観点で捉え、老朽化の状況を早い段階で把握し、適切な予防保全による長寿命化を推進するとともに、これまでの改築中心の手法に要するコストの縮減と財政負担の平準化を図ることを目的として策定します。

また、文部科学省が 2015 年（平成 27 年）3 月に策定した「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」における「公立学校施設に係る個別施設計画」に該当するものです。

3 計画期間

令和 4(2022)年度から令和 13(2031)年度までの 10 年間を計画期間とします。なお、計画は、予防保全対象部位の劣化状況や予防保全工事の実施状況、社会情勢等により適宜見直しを行うこととします。

4 対象施設

本計画は、本市が保有する小学校及び中学校の校舎、体育館、柔剣道場を対象とします。ただし、プール施設と小規模な建物（倉庫や部室等の概ね 200 ㎡以下の建物等）は対象外とします。

第2章 学校施設の目指すべき姿

学校は、児童生徒が一日の大半を過ごす重要な学習・生活の場であり、地域住民にとって最も身近な公共施設です。また、人口減少による少子高齢化が進む社会において、今後の学校施設に対する需要は大きく変化し、多様な機能や役割が求められることが推測されます。本市においても、将来求められる学校施設に対して、次に定める事項を基本に整備及び維持管理を進めます。

1 安全・安心な学校施設づくり

施設の耐震化については、平成25(2013)年度に完了していますが、一部の施設では老朽化が進んでおり、放置しておくとは危険な状況や不衛生な状況が発生します。そのため、緊急度に応じて適切なタイミングで修繕や改修を行うことで、安全な教育環境を維持していくように努めます。

さらに、防犯にも配慮した施設整備を行うとともに、学校施設の修繕・改修をきめ細かく行うことで、施設内での事故を未然に防ぎ、安心して学習できる環境を整えます。

2 快適な学習環境づくり

少人数学習や複数学年による学習、GIGA スクール構想に基づく ICT を活用した授業など多様な学習活動に対応すると共に、トイレの洋式化や特別教室への空調設備の整備など快適な学習環境を整備します。

3 ユニバーサルデザインと防災機能の強化

校舎内の段差解消や多目的トイレの整備などのバリアフリー化はもとより、多様な人々が利用しやすいように、ユニバーサルデザインの考えに基づく施設整備を推進します。また指定緊急避難場所に指定されていることから、防災部局と連携し、更なる学校施設の防災機能強化を図ります。

4 環境への配慮

施設の断熱化、LED 照明や空調設備の高効率化など省エネルギー化、太陽光発電設備、自然の光や風などの自然エネルギーの有効活用などにより、環境に配慮した施設整備に取り組みます。また木材など環境にやさしい建材の採用を推進すると共に、施設の適切な維持管理により可能な限り長く使用することで、廃棄物の削減に努めます。

第3章 学校施設の実態

1 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

(1) 対象施設の一覧

本市は、小学校6校、中学校3校の計9校の学校施設があります。

表 1 学校施設一覧

名称		住所	建設年度	児童生徒数 (人)	学級数 (学級)
小学校	中主小学校	六条 337 番地	1985 (S60)	641	27
	篠原小学校	大篠原 1414 番地	1979 (S54)	174	9
	祇王小学校	上屋 1169 番地	1973 (S48)	503	24
	三上小学校	三上 111 番地	1959 (S34)	180	10
	野洲小学校	小篠原 1147 番地	1977 (S52)	788	34
	北野小学校	市三宅 240 番地	1983 (S58)	666	28
小学校 計				2,952	132
中学校	中主中学校	六条 377 番地	1983 (S58)	333	13
	野洲中学校	小篠原 510 番地	1963 (S38)	514	20
	野洲北中学校	永原 1690 番地	1984 (S59)	526	21
中学校 計				1,373	54
小・中学校 合計				4,325	186

※建設年度は、現存する校舎及び体育館のうち、最も古い建物の年度を記載

※児童生徒数及び学級数は令和3(2021)年5月1日現在

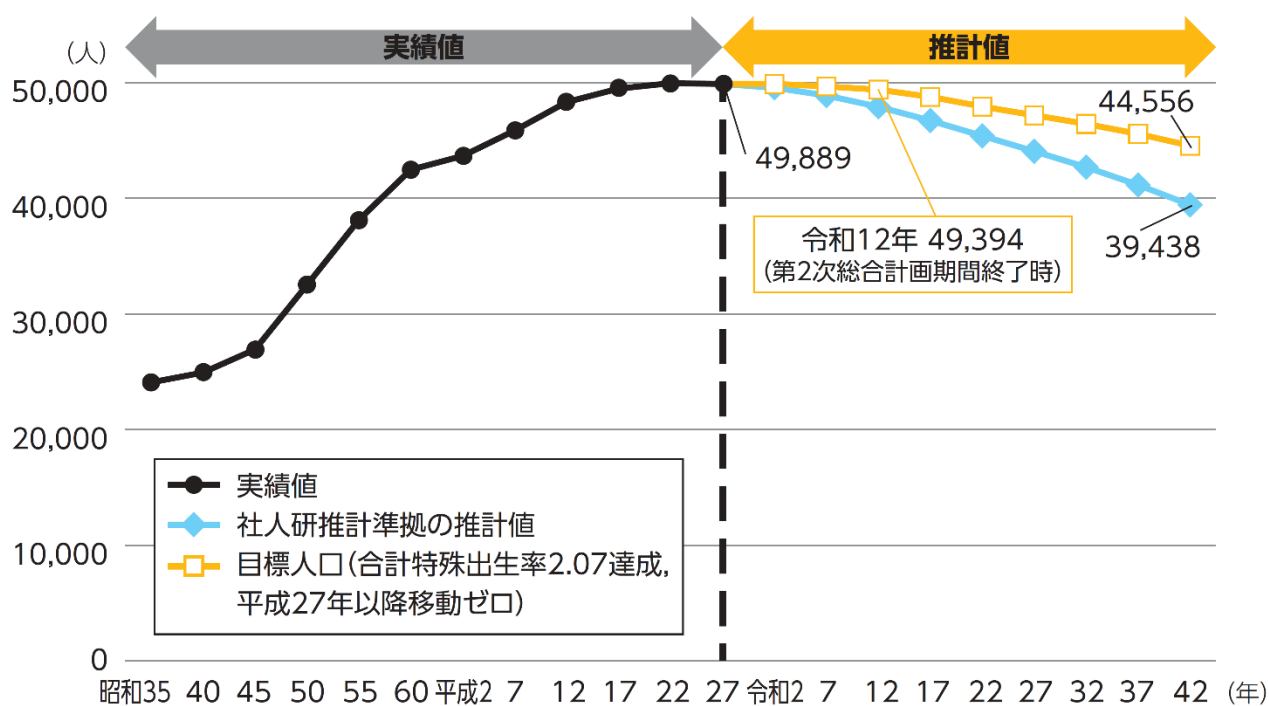
※学級数には、特別支援学級数も含む

(2) 児童生徒数及び学級数の変化

本市の将来人口推計は、平成27(2015)年には49,889人であった人口が、令和42(2060)年には39,438人(平成27年度比約20%減)となることが予測されています。

第2次野洲市総合計画において、令和12(2030)年の目標人口を49,000人(平成27年度比約2%減)としています。なお、目標人口が実現した場合でも、人口の年齢構成は生産年齢人口が減少し、老年人口が増加する傾向が続く見込みとなっています。一方で、年少人口は、しばらくの間は減少が続きますが、令和7年から増加に転じる見込みです。その結果、令和12(2030)年には、平成27年実績値と比較して、老年人口が約1,700人の増加、生産年齢人口は約1,800人の減少、年少人口は約400人の減少となることが見込まれます。

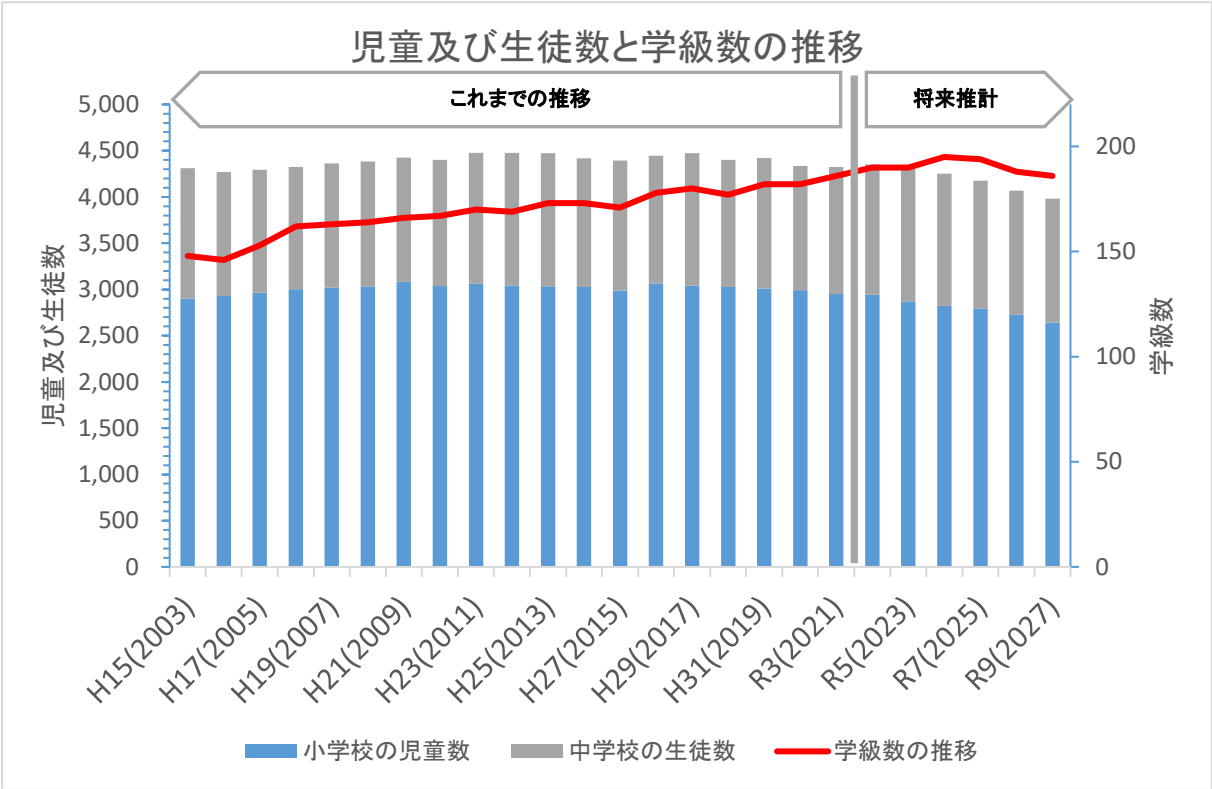
図1 今後の人口推移



※出展:「第2次野洲市総合計画(令和3年3月)」

近年の児童及び生徒数は、約 4,400 人で推移していましたが、将来人口推計と同様に緩やかに減少していくことが見込まれます。学級数は特別支援学級の増加により、令和6(2024)年まで増加しその後緩やかに減少していくことが見込まれます。

図 2 児童及び生徒数と学級数の推移



(3) 学校施設の配置状況

学校施設の配置は、以下のとおりです。

図 3 学校施設の配置状況



(4) 施設関連経費の推移

直近5年間（平成28年度から令和2年度）の本市の学校施設管理経費は小学校が年間122,585千円から897,878千円で、平均が390,525千円/年です。また中学校が年間28,855千円から927,894千円で、平均が292,854千円/年で推移しています。平成31（2019）年度及び令和2（2020）年度に、中主小学校と野洲北中学校において大規模改修事業を行ったため、施設整備費が大幅に増加しています。

図 4 小学校施設関連経費の推移

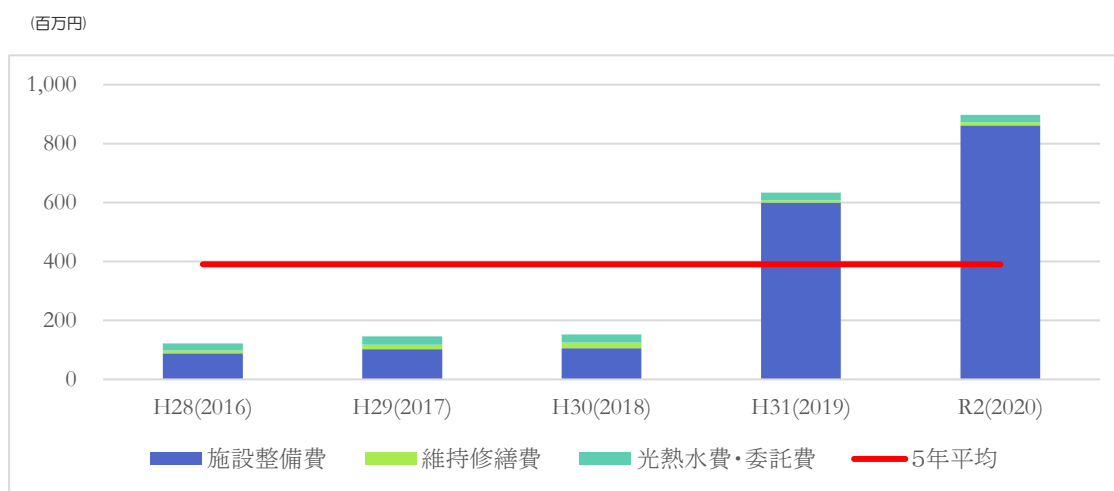
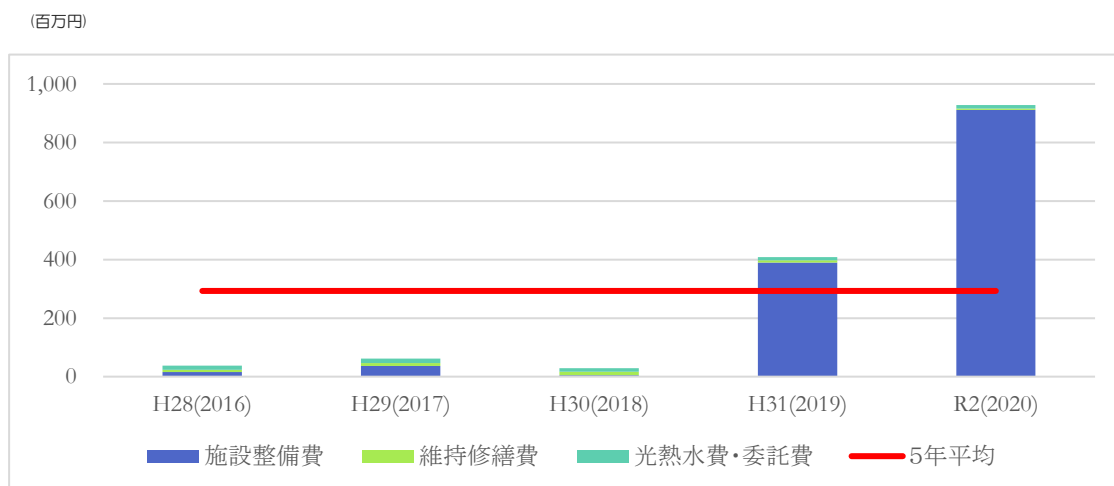


図 5 中学校施設関連費の推移

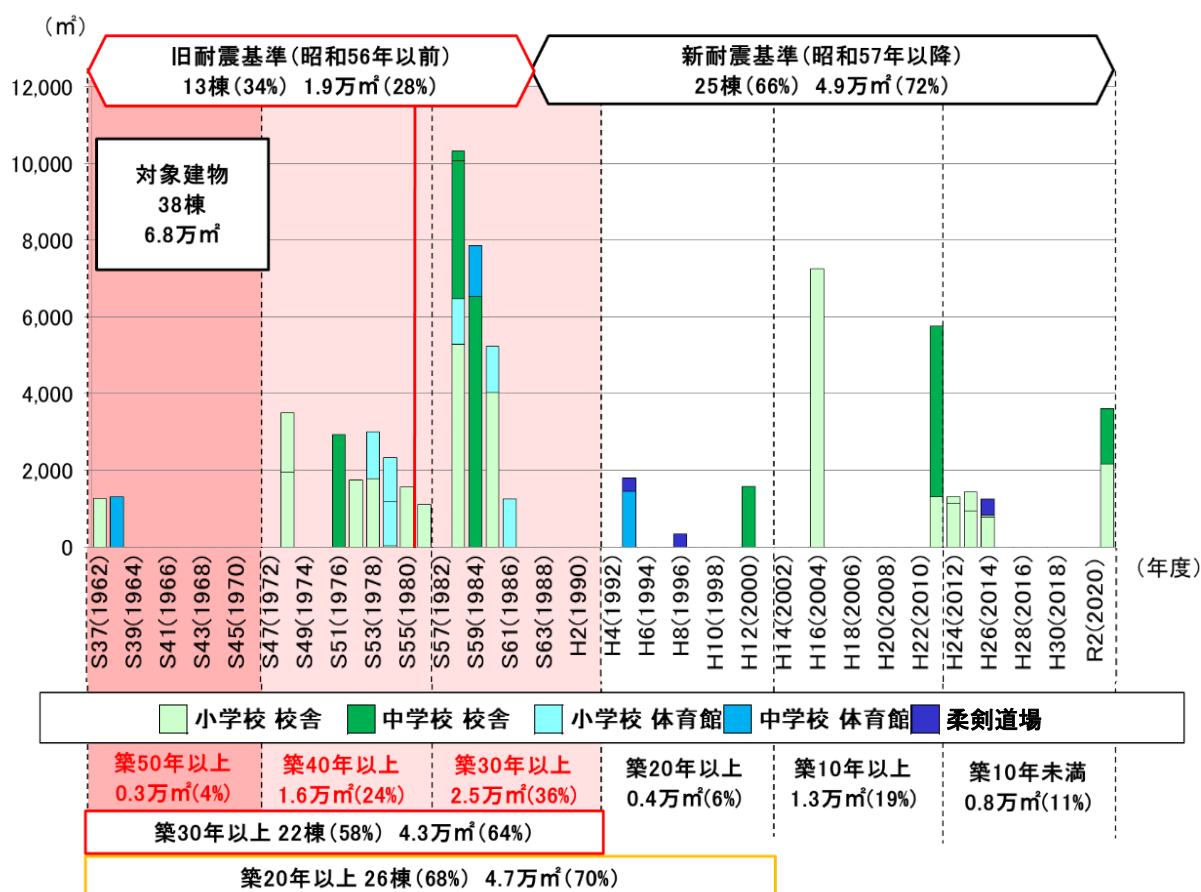


(5) 施設の保有量

① 校舎、体育館及び柔剣道場

対象施設の延床面積を建築年度別にみると、築年数30年以上の建築物は全体の約64%を占めており、築30年以上40年未満が約36%、築40年以上50年未満が約24%、築50年以上が約4%となります。

図 6 築年別整備状況



② プール施設

また、プール施設は、1校を除くすべてが築年数30年以上となっており、そのうち築40年以上が2校あります。

表 2 プール施設一覧

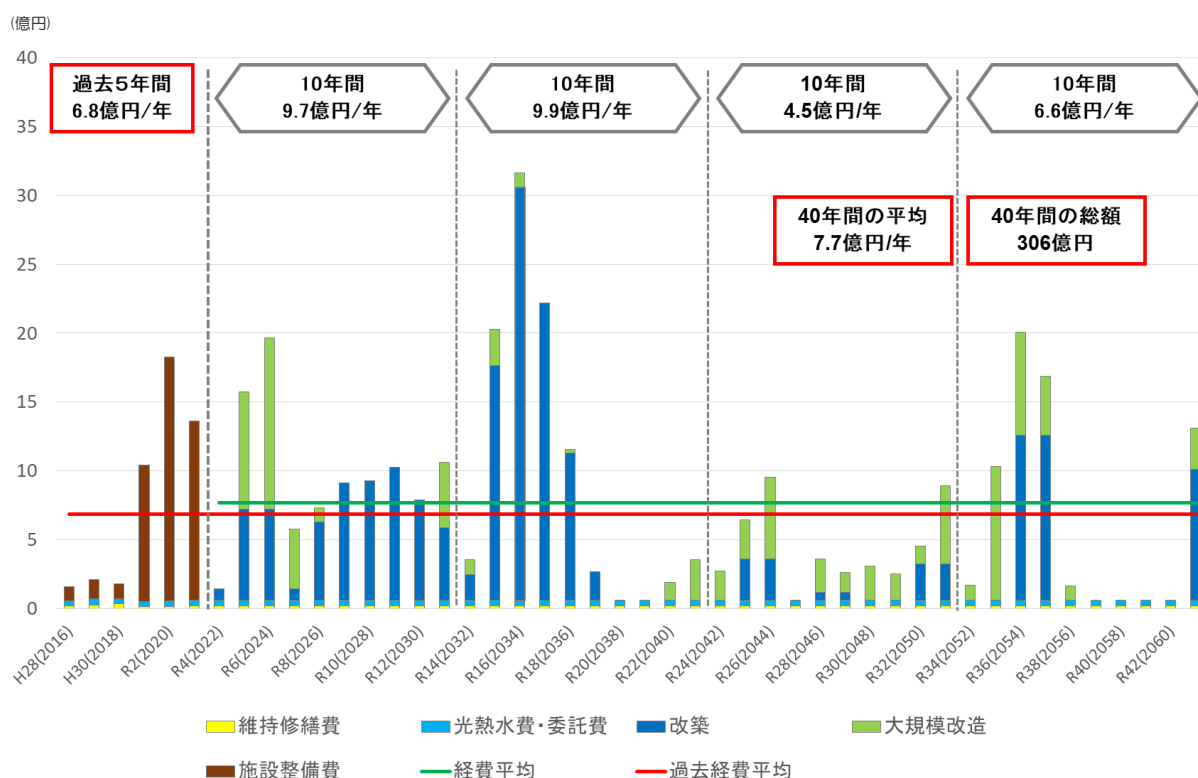
名称		建設年度	築年数	付属棟面積 (㎡)
小学校	中主小学校	1976(S51)	45	124
	篠原小学校	1987(S62)	34	146
	祇王小学校	1981(S56)	40	120
	三上小学校	1984(S59)	37	80
	野洲小学校	1985(S60)	36	103
	北野小学校	1983(S58)	38	120
中学校	中主中学校	1994(H6)	27	112
	野洲中学校	1986(S61)	35	113
	野洲北中学校	1984(S59)	37	109

(6) 今後の維持・更新コスト（従来型）

校舎及び体育館等について、築50年で建替える従来の改築前提の修繕・改修を今後も続けた場合のコストを試算すると、今後40年間のコストは 306 億円（7.7 億円/年）となり、直近5年間の施設関連経費約 6.8 億円/年を約 1.1 倍上回るが見込まれます。

特に改築が集中する令和14(2032)年度から令和23(2041)年度の10年間における施設関連経費は、9.9 億円/年となり、直近5年間の約 6.8 億円/年と比較すると、約 1.5 倍のコストがかかる試算となります。

図 7 今後の維持・更新コスト(従来型)



【試算条件】

改築周期	50 年
大規模改造	20 年周期
改築単価	330,000 円/㎡
大規模改造単価	82,500 円/㎡（改築単価の 25%）

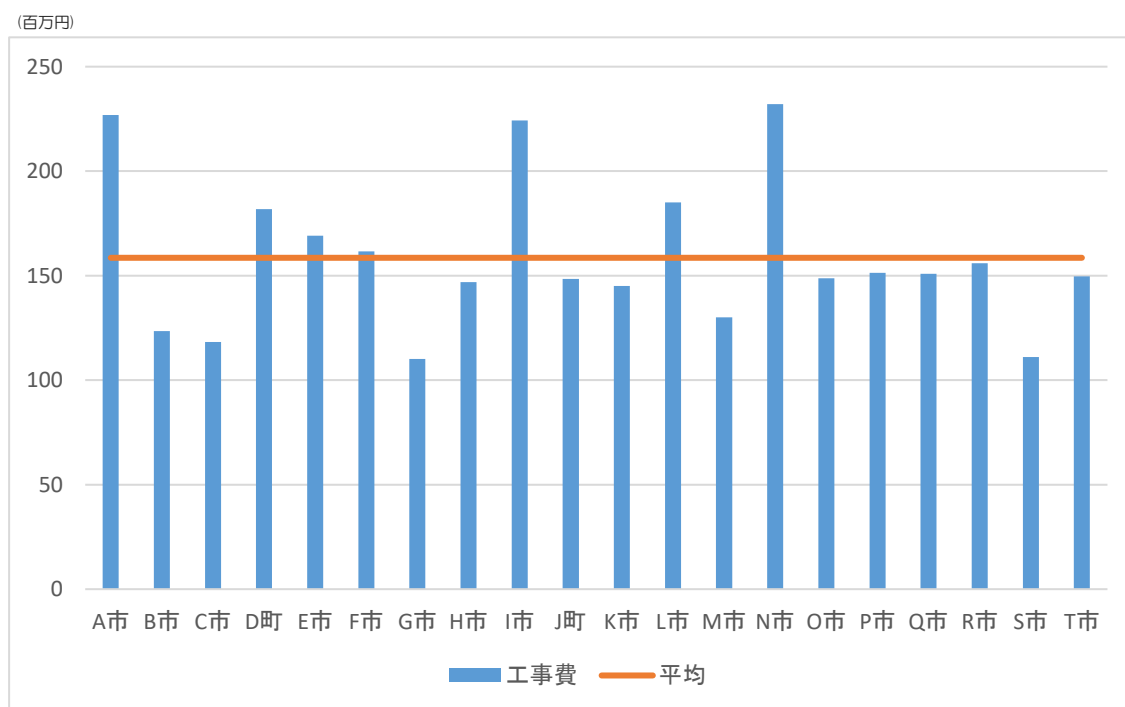
※「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）」に基づき試算

(7) プール施設の更新コスト

近年における他市町のプール改築工事实績によると、最大 2.3 億円/校、最小 1.1 億円/校であり、その平均値は約 1.58 億円/校となっています。また、規模や仕様、工事の範囲などバラつきがあり、概ね 1.3 億円/校から 1.9 億円/校の範囲に集中しています。

築 40 年で建替えするとした場合、今後 10 年間で順次改築を行うこととなり、その費用は 11.7 億円から 17.1 億円かかることが見込まれます。

図 8 他市町のプール改築工事实績



※コリンス実績登録より抽出

2 学校施設の老朽化状況の実態

(1) 構造躯体の健全度の評価

建築後45年程度で建替えるのではなく、80年程度の長期間にわたって建物を使用するためには、構造躯体が健全でなければ必要な安全性が確保できません。このため「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）」における評価方法に基づき、長寿命化改修に適さない可能性がある建物については、今後の維持・改修コストを試算する上では「改築」と区分します。

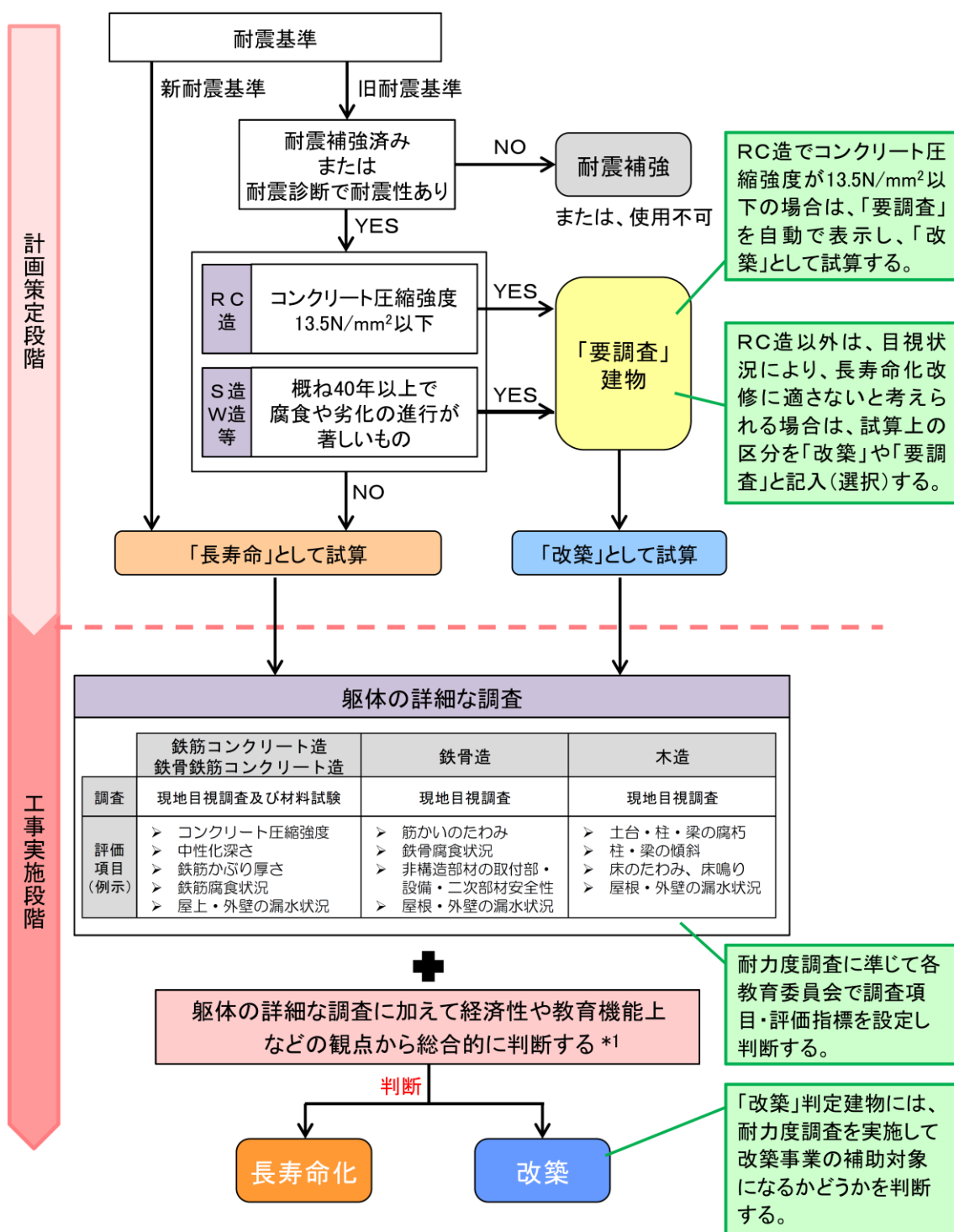
●長寿命化改修に適さない可能性のある建物の評価方法

※文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」より

- 旧耐震基準の鉄筋コンクリート造の建物については、耐震診断報告書に基づき、コンクリート圧縮強度が 13.5N/mm^2 以下のもの、及び圧縮強度が不明のものは「要調査」建物とし、試算上は「改築」とする。
- 旧耐震基準の鉄骨造、木造等の建物については、現地調査結果を基に判断し、概ね建築後40年以上で腐食や劣化の著しいものは「要調査」建物とし、試算上は「改築」とする。
- 上記以外は、試算上の区分を「長寿命」とする。

なお、上記の評価方法は、計画策定段階の簡易の判定のため、実際の工事実施段階では、次ページの判定フローを踏まえ、詳細な調査の結果や工事実施時期における社会状況、経済性、教育機能上の観点なども踏まえて、長寿命化と改築の判定を総合的に行います。

図 9 計画策定段階の長寿命化の判定フロー



*1 例えば、時を重ねて活用され続けた木造建物等は、それ自体が文化財的価値を有することも多く、改築に際しては、こうした観点からの検討も別途行う必要がある。

※出展：「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書(文部科学省)」

(2) 構造躯体以外の劣化状況等の評価

構造躯体以外の劣化状況の評価するにあたり、建築基準法第12条に基づき実施している定期点検の結果などをもとに、屋根・屋上、外壁、内部仕上げ、電気設備、機械設備の5つの部位について、A、B、C、Dの4段階で評価を行います。

表 3 評価基準

目視による評価【屋根・屋上、外壁】

評価	基準
良好 A	概ね良好
B	部分的に劣化(安全上、機能上、問題なし)
C	広範囲に劣化(安全上、機能上、不具合発生の兆し)
劣化 D	早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)等

経過年数による評価
【内部仕上げ、電気設備、
機械設備】

評価	基準
良好 A	20年未満
B	20～40年
C	40年以上
劣化 D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

※出展：「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）」

次に、上記の各建物の5つの部位の評価結果により、100点満点で数値化した値を「評価指標」（健全度）とし各施設の劣化状況の評価とします。

表 4 健全度の算定

①部位の評価点

	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

②部位のコスト配分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	5.1
2 外壁	17.2
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8.0
5 機械設備	7.3
計	60

③健全度

$$\text{総和(部位の評価点} \times \text{部位のコスト配分)} \div 60$$

※100点満点にするためにコスト配分の合計値で割っている。
※健全度は、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示す。

(右図「劣化状況調査票」記入例における健全度計算例)

	評価	評価点	配分	
1 屋根・屋上	C	40	× 5.1	= 204
2 外壁	D	10	× 17.2	= 172
3 内部仕上げ	B	75	× 22.4	= 1,680
4 電気設備	A	100	× 8.0	= 800
5 機械設備	C	40	× 7.3	= 292
計				3,148
				÷ 60
				健全度 52

※出展：「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）」

(3) 評価結果

「(1) 構造躯体の健全度の評価」及び「(2) 構造躯体以外の劣化状況」の評価結果は次のとおりです。現在、大規模改修事業を進めている中主小学校を除き健全度が低いのは、校舎では北野小学校・校舎棟1（36点）、中主中学校・本館（41点）、祇王小学校・本館/北館/南館（53点）となります。

表 5 建物情報一覧(校舎及び体育館等)

建物基本情報											構造躯体の健全性					劣化状況評価						備考			
通し 番号	施設名	建物名	棟番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定		試算上 の区分	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備		機械 設備	健全度 (100点 満点)	
				学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査 年度	圧縮強度 (N/㎡)									
1	中主小学校	旧館	002	小学校	校舎	RC	3	2,157	1957	S32	64	旧	済	済	H10			長寿命	D	D	C	C	C	29	R2:解体
2	中主小学校	新館	013-1, 013-2	小学校	校舎	RC	4	4,022	1985	S60	36	新				長寿命		C	C	C	C	C	D	36	H10大改(障害) H20大改(トイレ) H24大改(空調)
3	中主小学校	体育館	015-1, 015-2	小学校	体育館	RC	2	1,245	1986	S61	35	新				長寿命		A	A	A	A	A	A	100	R2大改(老朽)
4	中主小学校	増築棟	019	小学校	校舎	RC	3	2,160	2021	R3	0	新				長寿命		A	A	A	A	A	A	100	
5	篠原小学校	体育館	008	小学校	体育館	S	1	1,148	1979	S54	42	旧	済	済	H20	21	長寿命	C	C	C	A	A	A	55	H23耐震補強・大改(老朽)
6	篠原小学校	特別教室 棟	010	小学校	校舎	RC	3	1,113	1981	S56	40	旧	済	済	H22	21	長寿命	A	A	A	A	A	A	100	H23耐震補強・大改(老朽)
7	篠原小学校	教室棟	019	小学校	校舎	RC	3	1,147	2012	H24	9	新				長寿命		A	A	A	A	A	A	100	
8	篠原小学校	渡り廊下	020	小学校	校舎	RC	3	168	2012	H24	9	新				長寿命		A	A	A	A	A	A	100	
9	篠原小学校	管理棟	022	小学校	校舎	RC	2	944	2013	H25	8	新				長寿命		A	A	A	A	A	A	100	
10	祇王小学校	本館	010-1, 010-2, 010-7, 018	小学校	校舎	RC	4	1,938	1973	S48	48	旧	済	済	H9		要調査	C	C	B	C	C	C	53	H10耐震補強・大改 H24大改(空調)
11	祇王小学校	北館	010-3, 010-6, 017	小学校	校舎	RC	3	1,551	1973	S48	48	旧	済	済	H9		要調査	C	C	B	C	C	C	53	H10耐震補強・大改 H24大改(空調)
12	祇王小学校	南館	010-4, 010-5	小学校	校舎	RC	3	1,784	1978	S53	43	旧	済	済	H16		要調査	C	C	B	C	C	C	53	H18耐震補強・大改 H24大改(空調)
13	祇王小学校	体育館	013	小学校	体育館	S	1	1,148	1979	S54	42	旧	済	済	H20	21	長寿命	B	C	A	A	A	A	81	H23耐震補強・大改(老朽)
14	祇王小学校	西館	019	小学校	校舎	S	2	482	2013	H25	8	新				長寿命		A	A	A	A	A	A	100	
15	三上小学校	本館	001-1, 001-2	小学校	校舎	RC	3	1,269	1959	S34	62	旧	済	済	H20	18.1	長寿命	B	B	A	A	A	A	91	H23耐震補強・大改(老朽)
16	三上小学校	渡り廊下	001-3	小学校	校舎	RC	2	35	1979	S54	42	旧	済	済	H20	18.1	長寿命	B	B	A	A	A	A	91	H23耐震補強・大改(老朽)
17	三上小学校	南館	009	小学校	校舎	RC	3	1,561	1980	S55	41	旧	済	済	H20	21	長寿命	C	B	B	A	A	A	78	H23耐震補強・大改(老朽)
18	三上小学校	体育館	011, 012	小学校	体育館	S	1	1,211	1985	S60	36	新				長寿命		B	B	B	B	B	B	75	H17屋根改修
19	三上小学校	西館	016, 017	小学校	校舎	RC	3	1,304	2011	H23	10	新				長寿命		B	B	A	A	A	A	91	
20	野洲小学校	南館	001-6, 001-7	小学校	校舎	RC	4	1,737	1977	S52	44	旧	済	済	H20		要調査	C	B	B	B	B	B	72	H16大改 H23耐震補強
21	野洲小学校	体育館	013	小学校	体育館	S	1	1,226	1978	S53	43	旧	済	済	H20		要調査	B	C	B	A	A	A	71	H23耐震補強・大改(老朽)
22	野洲小学校	本館	020	小学校	校舎	RC	4	7,252	2004	H16	17	新				長寿命		A	A	B	A	A	A	91	H24大改(空調)
23	北野小学校	校舎棟1	001, 001-2	小学校	校舎	RC	4	5,287	1983	S58	38	新				長寿命		C	C	C	C	D	D	36	H24大改(空調)
24	北野小学校	体育館	002	小学校	体育館	S	1	1,190	1983	S58	38	新				長寿命		C	B	C	B	B	B	59	H20屋根改修
25	北野小学校	校舎棟2	006	小学校	校舎	S	2	772	2014	H26	7	新				長寿命		A	A	A	A	A	A	100	
26	北野小学校	渡り廊下	007	小学校	校舎	S	2	65	2014	H26	7	新				長寿命		A	A	A	A	A	A	100	
27	中主中学校	本館	012, 017	中学校	校舎	RC	3	3,593	1983	S58	38	新				長寿命		C	C	C	B	D	D	41	H24大改(空調)
28	中主中学校	技術棟	013	中学校	校舎	S	1	255	1983	S58	38	新				長寿命		D	C	B	B	B	B	59	
29	中主中学校	体育館	016-1, 2	中学校	体育館	RC	2	1,450	1993	H5	28	新				長寿命		D	C	A	B	B	B	69	
30	中主中学校	格技場	016-3	中学校	武道場	RC	2	356	1993	H5	28	新				長寿命		D	C	A	B	B	B	69	
31	中主中学校	新館	024	中学校	校舎	RC	3	1,585	2000	H12	21	新				長寿命		B	B	B	B	C	C	71	H24大改(空調)
32	野洲中学校	新館	003, 006, 007	中学校	校舎	RC	4	2,923	1976	S51	45	旧	済	済	H17	17	長寿命	B	A	A	A	A	A	98	H23耐震補強・大改(老朽)
33	野洲中学校	体育館	004	中学校	体育館	S	2	1,303	1963	S38	58	旧	済	済	H21	17.1	長寿命	B	A	A	A	A	A	98	H23耐震補強・大改(老朽)
34	野洲中学校	柔剣道場	018	中学校	武道場	S	1	346	1996	H8	25	新				長寿命		B	B	B	A	A	A	81	
35	野洲中学校	改築棟	020	中学校	校舎	RC	4	4,465	2011	H23	10	新				長寿命		B	A	A	A	A	A	98	
36	野洲北中学校	南校舎、 北校舎	001, 008, 009	中学校	校舎	RC	4	6,520	1984	S59	37	新				長寿命		A	A	A	A	A	A	100	H24大改(空調) R2、R3大改(老朽)
37	野洲北中学校	体育館	002, 004	中学校	体育館	S	2	1,341	1984	S59	37	新				長寿命		A	A	A	A	A	A	100	R3大改(老朽)
38	野洲北中学校	柔剣道場	010	中学校	武道場	S	1	410	2014	H26	7	新				長寿命		A	A	A	A	A	A	100	
39	野洲北中学校	増築校舎	011	中学校	校舎	RC	3	1,439	2021	R3	0	新				長寿命		A	A	A	A	A	A	100	

プール施設について、プール付属棟・プールサイドまた配管等、全体的に老朽化が進んでいます。埋設された給水配管からの漏水も発生しており、随時修繕で対応しています。老朽化の状況を踏まえると、各施設とも大規模改修若しくは改築を行う必要があります。

しかし、令和3(2021)年度において、野洲小学校では試験的に余熱利用施設を活用しプール授業を行っており、結果によっては他校も含め余熱利用施設の活用又はプール施設の集約化など、プールの利用形態のあり方を検討したうえで、施設の整備方針を決定します。

表 6 建物情報一覧(プール施設)

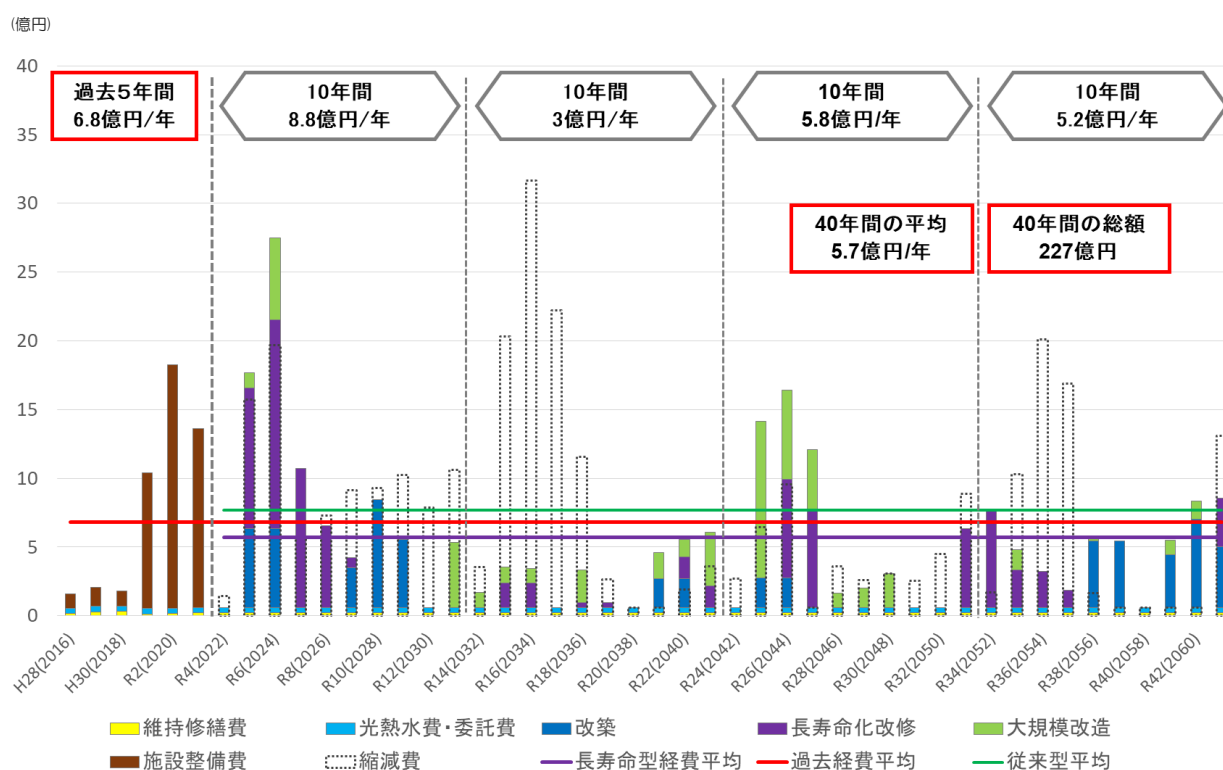
建物基本情報											構造躯体の健全性					劣化状況評価						備考		
通し 番号	施設名	建物名	棟番号	用途区分		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備		健全度 (100点 満点)	
				学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査 年度	圧縮強度 (N/㎡)								試算上 の区分
1	中主小学校	プール棟	011, 012	小学校	その他	RC	1	124	1976	S51	45	旧						C	C	C	C	C	40	
2	篠原小学校	プール棟	014	小学校	その他	RC	1	142	1987	S62	34	新						C	C	C	C	C	40	
3	祇王小学校	プール棟	015	小学校	その他	S	1	120	1981	S56	40	旧						C	C	C	C	C	40	
4	三上小学校	プール棟	003	小学校	その他	S	1	80	1984	S59	37	新						C	C	C	C	D	36	
5	野洲小学校	プール棟	016	小学校	その他	S	1	103	1985	S60	36	新						C	C	C	C	D	36	
6	北野小学校	プール棟	004	小学校	その他	RC	1	120	1983	S58	38	新						C	C	C	C	C	40	
7	中主中学校	プール棟	020	中学校	その他	RC	1	112	1994	H6	27	新						C	C	C	C	C	40	
8	野洲中学校	プール棟	015	中学校	その他	RC	1	113	1986	S61	35	新						C	C	C	C	D	36	
9	野洲北中学校	プール棟	005	中学校	その他	RC	1	109	1984	S59	37	新						C	C	C	C	C	40	

(4) 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）

校舎及び体育館等について、「構造躯体の健全度の評価」及び「構造躯体以外の劣化状況等の評価」の結果に基づき、長寿命化により 80 年に建物を長寿命化した場合、今後 40 年間の維持・更新コストは総額約 227 億円（5.7 億円/年）となり、従来の建替え中心の場合の 306 億円（7.7 億円/年）より 79 億円（2.0 億円/年）、約 26%の縮減となります。

ただし、令和 4（2022）年度から令和 13（2031）年度の 10 年間における施設関連経費が 8.8 億円/年となっており、財政的な負担などを考慮のうえ実施計画において平準化する必要があります。

図 10 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）



【試算条件】

改築周期	長寿命化	80 年
	改築・要調査	50 年
長寿命化改修		40 年
大規模改造		20 年周期
改築単価		330,000 円/㎡
長寿命化改良単価		198,000 円/㎡（改築単価の 60%）
大規模改造単価		82,500 円/㎡（改築単価の 25%）

※「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）」に基づき試算

第4章 学校施設整備の基本的な方針等

1 学校施設の規模・配置計画等の方針

児童・生徒数の将来推計や立地条件等を踏まえ、基本的には学校施設の規模・配置については現状を維持していくものとします。

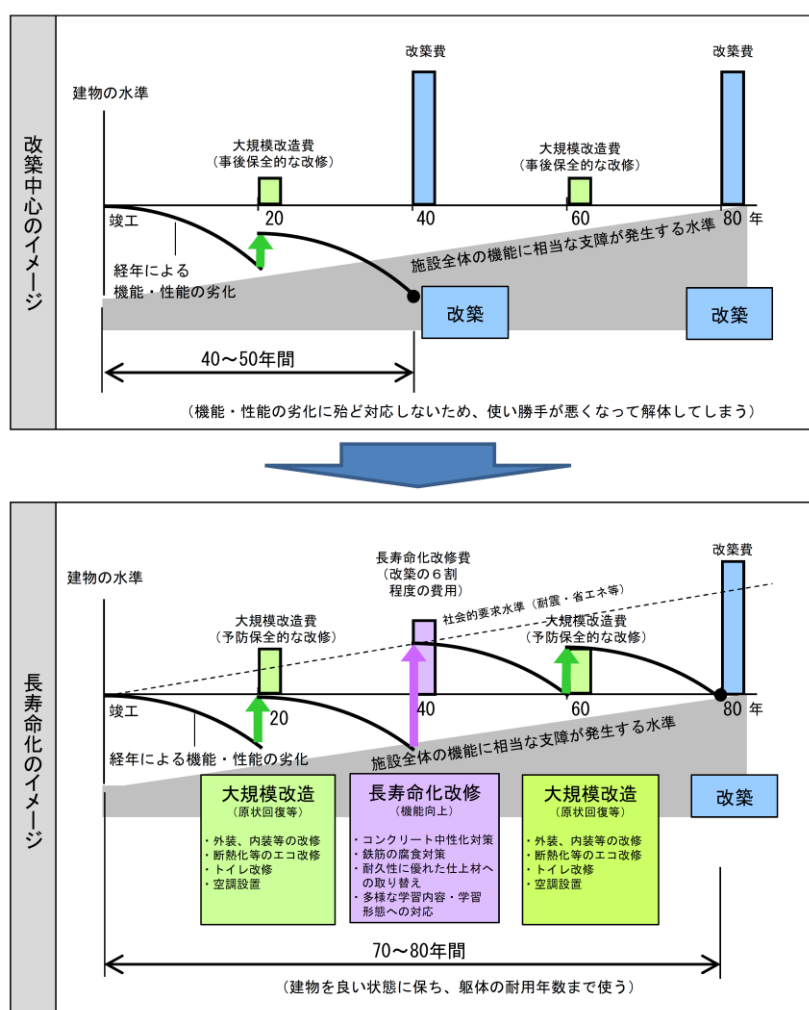
一方、将来的な人口減少や児童・生徒数の動向に注視しながら、必要に応じ通学区域の見直しなども視野に入れた検討を行うこととします。

2 改修等の基本的な方針

施設の維持管理方法については、「事後保全的な改修」と「予防保全的な改修」の2つの方法があります。

今後は、「予防保全的な改修」を実施することにより、改築(建替え)から長寿命化による改修を基本的な方針とし、原状回復のための大規模改造等についても考慮したうえで部位改修を併用した整備を行うこととします。

図 11 改築中心から長寿命化への転換のイメージ



※文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」より

第5章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

1 改修等の整備水準

前章の基本方針を踏まえ、効率的かつ実効性のある長寿命化を図ることを目的に、本計画における整備水準を以下に示します。ただし、あくまでも標準的な整備水準であり、整備内容は個別施設の状況、機器等の固有周期や財政状況を踏まえて判断することとします。

表 7 整備概要

	大規模改修（原状回復等） ※築 20 年/築 60 年	長寿命化（機能向上） ※築 40 年
屋根 屋上	屋上防水の更新	屋根/屋上防水の更新 ※断熱化を検討
外壁	外壁改修 老朽化の著しい箇所の修繕	外壁改修 外部建具の更新 ※断熱化を検討
内部 仕上	老朽化の著しい箇所の修繕	天井、壁及び床の改修 内部建具の更新 家具、什器の更新
電気 設備	老朽化の著しい箇所の修繕	受変電設備の更新 照明機器の更新（効率化） 配管、配線の更新
機械 設備	空調機器等の更新 E V の修繕 老朽化の著しい箇所の修繕	給排水管の更新 トイレの全面改修 空調機器の更新 E V の更新
機能 向上		躯体の中性化対策 鉄筋の腐食対策 多様な学習形態への対応 ユニバーサルデザイン化

2 維持管理の項目・手法等

学校施設を長い間、安全で良好な状態で使用するためには、劣化や損傷が顕在化する前の段階で対策を実施する必要があります。

各施設で建築基準法第 12 条に基づく定期点検とともに、日常的、定期的な施設管理者等による点検により、建物の不具合を早期に発見し、突発的な事故等を減らすことができ、児童生徒の安全・安心の確保が可能になるとともに修繕費用支出の縮減につながります。

表 8 点検項目

維持管理 分類	項目	内容	実施時期	点検者
日常的な 点検	日常点検	危険箇所や設備の異常の有無を確認	毎日	施設管理者
定期的な 点検	自主点検	建物や設備の破損、劣化状況の確認	1 年に 1 回	施設管理者 施設設置者
	建築基準法 第 12 条に 基づく定期点検	建築基準法で定められた点検	法で定められた時期	専門業者
	非構造部材点検	非構造部材の劣化状況等	3 年に 1 回	施設管理者 専門業者
	各種設備等の 法定点検	受変電設備、浄化槽、消防設備	法で定められた時期、随時	専門業者 施設管理者

第6章 長寿命化の実施計画

1 改修等の優先順位付けと実施計画

(1) 優先順位の考え方

第3章(2)「表5 建物情報一覧(校舎及び体育館等)」の劣化状況評価の健全度、建物の築年数及び過去の改修履歴等を基に優先順位を設定するものとします。そのうえで、工事の効率性及び財政負担の平準化を考慮し、校舎と体育館、その他附属施設などの一連の施設改修については、学校ごとに継続して改修工事を行うことを基本とします。

表9 改修等の優先順位

優先度	項目	
高	劣化状況評価の健全度	左記を踏まえ、工事の効率性及び財政負担の平準化を考慮し、学校ごとに改修工事を計画する
	築年数	
低	過去の改修履歴	

(2) 実施計画

今後10年間の長寿命化改修実施計画を以下に示します。現在進めている中主小学校大規模改修事業に引き続き、改修等の優先順位を勘案したうえで、各学校とも概ね3～4年間の工事期間を見込み順次進めていくこととします。

また、過去に設置した空調機器については、設置後15年を超えてくることから、計画的に機器更新を行うものとします。

表10 今後10年間の実施計画

	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)
中主小学校	旧館改築 新館大改									
北野小学校	基本・実施設計		【校舎増築・長寿命化改修】 校舎・体育館							
中主中学校		基本・実施設計	【長寿命化改修】 校舎・体育館							
祇王小学校						基本・実施設計	【長寿命化改修】 校舎			
								※老朽化の状況により改築も検討		
その他			【空調設備改修】 ※設置後15年超の機器を対象							
	【通常修繕】									

2 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果

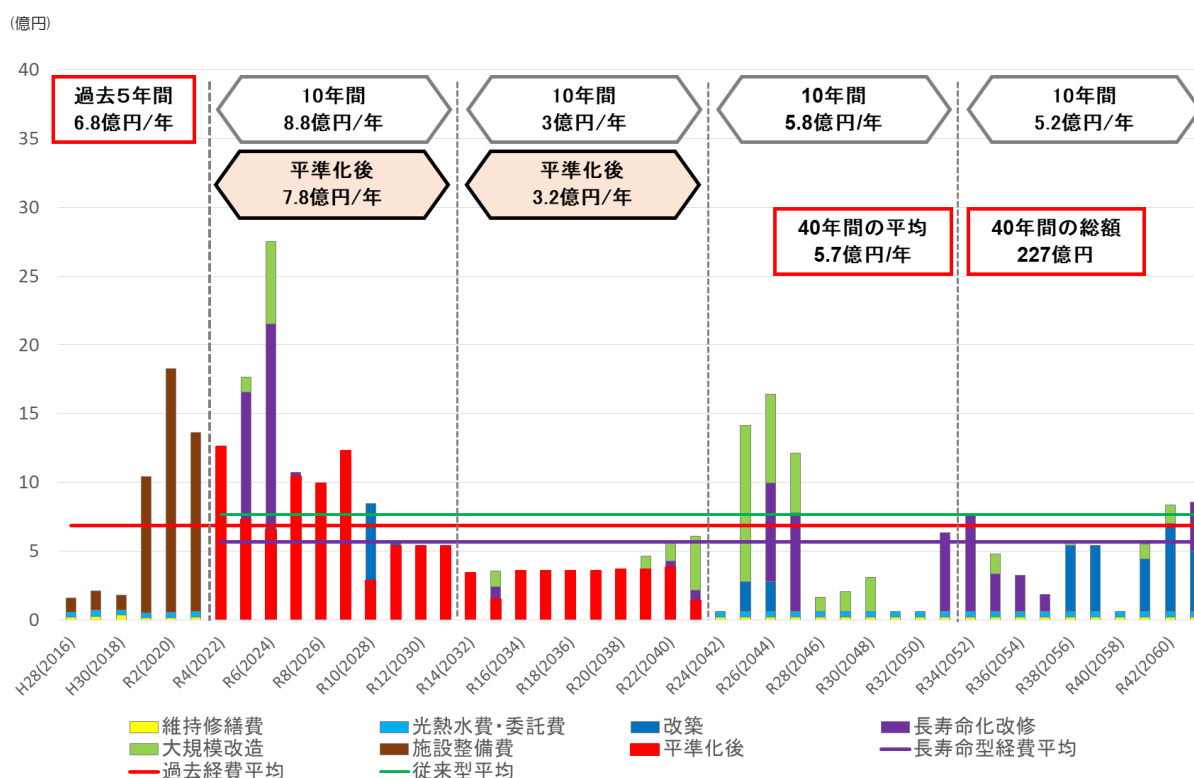
(1) 長寿命化のコストの見通し

実施計画に基づいて、今後20年間における施設関連経費を平準化すると、令和4(2022)年度から令和13(2031)年度の10年間における施設関連経費が7.8億円/年(最大12.6億円/年)となる見込みです。

また令和14(2032)年度以降については、現時点において想定される長寿命化及び大規模改修などを考慮し3.2億円/年を見込みます。ただし、令和22(2040)年度頃に築80年に達する施設があり、改築する場合の費用は見込んでいません。

なお、今後の児童及び生徒数や学級数の推移、その他社会状況により大きく変動することとも考えられることから、必要に応じ見直します。

図 12 維持・更新コストの平準化



(2) 長寿命化の効果

建物を長寿命化することにより施設を長く使い続けることで、結果ライフサイクルコスト（LCC）を縮減することができます。また、改修等の優先順位に基づき長期的な計画を立てることで、施設関連経費を平準化し財政的な負担を軽減し、効率的な施設の維持管理を行うことができます。

なお、児童及び生徒数の減少や地域性に応じて、今後通学区域の見直しなど学校のあり方について十分に検討し、施設規模の適正化や複合施設化を進め更なる財政負担の軽減に努める必要があります。

第7章 長寿命化計画の継続的運用方針

1 情報基盤の整備と活用

過去の改修履歴を踏まえ、施設の老朽化の状態や建築基準法第12条に基づく点検等の法定点検の結果を管理し、計画の更新に活用します。

2 推進体制等の整備

学校施設の所管課である教育委員会事務局教育総務課が中心となり、教育委員会事務局内の関係課と連携しながら学校施設長寿命化計画を継続的に運用します。

3 フォローアップ

本計画は、学校施設の改修や建替えの優先順位を設定するものであり、事業化については、その年々の予算編成方針等を踏まえて事業費を精査します。また、事業の進捗状況や各施設の老朽化の状況、マネジメント方針等の市全体方針の進捗等を踏まえて本計画は見直しを図るものとします。

2022年（令和4年）3月

発行 野洲市教育委員会

〒520-2395 滋賀県野洲市小篠原 2100 番地 1

TEL (077) 587-6014

FAX (077) 587-3835